

### Ⅲ 県立病院の在り方の主な論点

県立病院の現状に関して説明を受ける中で、各委員からは

- 県立病院は専門病院で本当に良いのか。がんセンターについては他のがん拠点病院が総合病院であることを考え、その点を議論しても良い。
  - 県立病院は繰入金で 80 億円から 150 億円まで増加し、さらに 60～70 億円の損失があるという内情を見ると厳しい。
  - 過去の収支計画の達成状況は。もう少し改善すれば達成できるのか、抜本的に経営形態まで見直さなければいけない状況なのか。
  - 医師数や看護師数は十分か。
- などの意見や質問があった。

そうした点を勘案し、論点を以下の 3 つに集約し、この「主な論点」を軸として県立病院の在り方を検討することとした。

#### (主な論点)

- 論点 1 高齢化が進む中で県立病院の在り方として  
今後も専門病院のままでよいのか
- 論点 2 多額の一般会計繰入金を入れても果たすべき  
県立病院の役割とは何か
- 論点 3 県立病院の役割を果たしていく上で  
最適な経営形態は何か

具体的な在り方の検討については、各県立病院から課題について説明を受け、課題や委員の意見を「主な論点」ごとに整理したうえで、本委員会としての考え方をまとめていくこととした。